

# 酉年に 因みて 雞の童謠いろいろ

葛原しげる

酉の年、にはごりの年、何でも、今年はごりの年ださう

で、大分、景氣のよさそうなおはなしです。出雲の大神様

も、今年は大忙しであらうご、覺悟をしてをられますさう

で、まことに以て、お目出度い事の限りで御座います。私

共もせい／＼勉強いたしましたして、よい童謠を作りましては、

小さい方たちに、悦んで頂き、童謠作者として、甲上をこ

りたいもので御座います。今日もペンをこり、原稿紙をこ

り、年はこりまして、元氣よく、ニコ／＼、ピン／＼

と、あちらの本箱こちらの本棚から、いろいろの本やら譜

やらこりあつめて座右に重ねて、この稿に、こりかゝりま

して御座います。

一體、コッケッコミ時をつけ、コケコケコケッコミ卵

を産み、大人に小人に縁故の深い雞で御座いますのに、ほ

んごの雞、親にはごりの童謠といふものは、何うも少ない

のは何うした事なのでせう。

## 親子雞

林柳 澤氏作歌

一、親雞 お先へ コッコッコ

子雞は あみから ビビビ

たべもの探しに 出かけます

二、親雞 大聲 コッコッコ

子雞が あつまる ビビビ

たべもの見つけて たべてます

三、親雞子雞を 見てゐます

子雞は そこらを かけてます

ほんごに 仲よし 親子雞

之に反して「ひよ子」だけの、古くから澤山あります。

一、ひよこ

(文 部 省)

一、ひよこくく 小さな ひよこ

兄弟仲よく 一しよに歩け

足のつよくならぬうちに

遠くへ行くな 一人で行くな

二、ひよこくく 可愛いひよこ

いつでも親にだかれて眠れ

はねの長くならぬうちに

離れて寝るな 一人で寝るな

二、ひよこ

一、うちのひよこは 可愛らし

親の羽から 顔出して

やさしい聲で ぴっくくく

二、うちのひよこは 可愛らし

親のせなかに しまつて

かしら すくめて ぴつくく

二篇とも明治の昔から、よく謳はれたもの、第一のは教訓的であり、第二のは、發見に機微なものがあります。共に可愛らしくて、結構です。近頃のものでは、次の二篇があります。

三、ひよこ

八波則吉氏作歌

一、ピョくくピョくく 可愛いひよこ

殻をこわして 巢立つた子供

可愛い聲で ひよこは歌ふ

ピョくくくく、ピョくく

二、ピョくくピョくく 可愛いひよこ

日も暖かに お庭を みんな

可愛い足で ひよこは歩く

ピョくくくく、ピョくく

三、ピョくくピョくく 可愛いひよこ

親鳥く餌を 拾つてやれば

可愛い口で ひよこは食べる

ピョくくくく、ピョくく

四、ひよこ

島木赤彦作歌

一、ひよこ ひよこ

お前のからだは 草より低い

草に かくれて ぴよ〜歩く

二、ひよこ ひよこ

お前の趾は 草より稚い

草の芽をふんで ぴよ〜歩く

三、ひよこ ひよこ

お前の眼は 露より涼しい

露をすつて ぴよ〜歩く

四、ひよこ ひよこ

お前の心は 親より やさし

親によばれて ぴよ〜歩く

五、ひよこ ひよこ

お前の寢床は 綿より温い

親のお腹へ ぴよ〜入る

右の中、第三のは、雛子の生長を敘述し、第四のは、限りなく美化して雛子を讚美したものです。讚美のあまり、

すぎた點もあるかと思はれます。

一體、「ひよこ」に限らず、幼児の生活に即したものは、

幾人もの作者によつて、幾篇も同題のものが出来て、實用

上では、時々困ります。拙作の中でも、同題のがあります。

五、ひよこ

梁田貞氏作曲

一、ひよこ ひよこ

ピヨ ピヨ ないて

親のまはりで よろこびながら

餌を拾ふ 餌を拾ふ

二、ひよこ ひよこ

ひよこ が 一羽

垣根の外で 迷ひ子になつて

ピヨ〜、ピヨ〜

(大正幼年唱歌第五集)

これは大正四五年頃作りました。のちは、これに自分でも作曲して琴で弾いて獨り楽しんでみます。宮城道雄氏に、ほめられて、あつぱれ〜、でしたが、後のつゞかな

い作曲家で、今や、あはれ〜です。

琴こいへば、大正の中頃、少し大きくなつた雛子を作つたのがあります。

六、をんざり、めんざり 宮城道雄氏作曲

一、私のそだてた をんざりが

體も太く 脊も伸びて

今朝から大きな聲をして

コケッコッコー ミ なき出した

早く 明日の朝が来て

また 啼いてくれ コケッコッコー

二、妹の育てた めんざりが

體も太く 脊も伸びて

大きな卵を 今朝ひみつ

うんでみました うみました

早く 明日の朝が来て

また うんでくれ 大卵

(箏曲童謡 第六集)

此の歌曲の出来た頃には「おさる」や「かたつむり」なき、

共に、箏曲演奏會では珍らしいもので、聴衆に、上手や美しさの他に、可愛さ、あざけなさで、ゆきりのある、なごやかな、溫情を覚えさせる役目を果したものです。その後、「チョコレイト」で、ニッコリさせられ、「お猿のお顔は」で笑はせられ、「ワン〜ニャオ〜」や「町の物賣」「鼻白、鼻黒小僧さん」では、わーッッ笑はされる様になつたのです。

七、雨だれと雛子

一、雨は 止んでも まだ落ちる

屋根から 落ちる

ボチヨン ボチヨン

お日に きら〜 照らされて

落ちては 落ちては

チロン チロン

二、晴れた。止んだミ 出た雛子

ピョ〜なけば

ボチヨン ボチヨン

ひよ子 キョロ〜見廻して

まだ雨降るかミ

ビヨン・ビヨン

これは雨だれの不思議を、雛子と共に不思議がる幼児の心です。この最後の「ビヨン〜」は

「ビヨ、ン」の二音

ではなくて、「ビ、ヨ、ン」に、三音なのです。雨だれが、下の水溜に落ち込んで、面白く、ボチヨン〜ミ音をたてるのに対照して、雛子がビヨン〜ミなくのです。

さて、近頃、「大正幼年唱歌」「大正少年唱歌」の多少の経験に、新鮮味を加へて、「昭和幼年唱歌」「昭和少年唱歌」を、同じ作曲者小松耕輔、梁田貞兩氏に毎週會合しては、著作中で御座いますが、この第三集に於て、小學國語讀本卷三の第三課の「ビヨコ」の文によりまして、「私のひよ子」を作りました。本文の題は「ビヨコ」でありますけれど、前述の如く、あまりに、同じ名の題のものが多すぎますので、後から作りますものは、先出の歌詞へは、一面敬意を表して、反面、混雜を來さないやうに、私共の老婆心は、苦しんで別名をつけてをります。

その「ビヨコ」の文は、左のまほりです。

(前略) アル アサ オカアサン ガ

「ビヨコ」ガ カヘツタ

ト オツシヤツタ ノデ、見ニ イキマスト、オヤドリ  
ノ ムネ ノトコロ カラ、ヒヨコ ガ、小サナ アタマ  
ヲ 出シテ、ビヨビヨ ト ナイテ、キマシタ。ハネノ下  
ニモ、一二三バ キルヤウデシタ。

ヒヨコ ガ ナクト、オヤドリハ オハナシ デモ ス  
ルヤウニ、ココココト イツテキマシタ。

一二三日 タツト、オヤドリト ヒヨコヲ ニハヘ ツレ  
出シマシタ。ヒヨコ ハ ミンナデ 十バデス。

ヒヨコ ハ ホソイ アシデ、チヨコチヨコ アルキマ  
ス。タベモノ デモ サガスノデセウ、キイロイクチバシ  
デ、トキドキ デメン ラ ツツキマス。

ナノハ ヤ コ米ヲ ヤルト、ヒヨコハ ミンナ ヨツ  
テ キテ タベマス。オヤドリ ハ ナンニモ タベナイ  
デ、コココト イヒ ナガラ、ソノ ヘン ラ見マ  
ハリマス。(後略)

これを、歌にしたのが次のです。

### 八、私のひよ子

梁田貞氏作曲

一、ひよ子。

ピヨくくくく、親鳥の

胸のあたりに のぞいてる

羽根の下にも 一二羽三羽

可愛い、頭が見えてゐる

私のひよ子 私のひよ子

二、ひよ子。

チヨコくくくく、細い足

きいろいろい嘴 ピーヨピヨ

時々 地面を つくのは

何か たべ物 さがすのか

私のひよ子 私のひよ子

三、ひよ子。

ピヨくくくく、かけてきて

みんなで 菜の葉をたべてるさ

親鳥 ココココ、見まはして

何も食べずに見てまはる

私のひよ子 私のひよ子

(昭和少年唱歌第三集)

御覽のまほり文を歌にしたわけで、私の手柄さいふものはないのですが、本文中には「こごめ」を、雛子に與へる事になつてゐますから、第三節に

「みんなで こごめをたべてるさ」

しましたのです。するこ作曲者は、異常な心構の人ですから、「雛子」には、小米はやらぬ方がいゝんだ」に強い主張であり、出版係の青年さへ、それに強く共鳴したので「菜の葉」にかへました。事實、私共の郷里備後地方では小米を撒いてやりますのに。

ところが、又、元に戻りますが、雛子ばかりが、鶏の詩になるのではない事は、いふまでもありませんが、世の多くの詩人は——童謡詩人は、何故これを、詩化しないのでせう。雑誌「富士」の新年號のために、埼玉縣下の農村で、半日かかつて、漸く撮影して來たさいふ「親にはさり子にはさ

「の寫真を示されて、これを童謡にしてくれ」の依頼を受けて作り出したものが、幸にして好詩で、悦んでをります。これは、新年號ではありますし、さうでなくても、明るい側面をのみ見たく、世の中の何でも、善意に解したいニコピン主義の私の立場からも、時節柄さいふ事は、ヌキにしても、求むれば興へられ、叩けば開かれ——努力すれば酬られるさいふ信條の下に、「探しさへすれば、餌は依頼では「親ざり子ざり」にしてほしい」の事でしたが、それは私自分の二十年前舊作にも、雲雀の親子を歌つて曲もついてゐる「親鳥子鳥」があり、前記の「親子鶏」もありますので、思ひきつて、「うれしいばかりの親鶏子鶏」でしたが、また「うれしいばかりの鶏親子」もほしいと考へてゐます。

### 九、うれしいばかりの親ざり子ざり

一、親ざり 子ざり

コツココ、コケコケ

ビーヨ ビヨ

何故だか 今日も うれしいばかり

探せば 草の實 こぼれ米

ここにも おいしい 餌ばかり

嬉しいばかりの親ざり子ざり

コツココ コケコケ

ビョ〜 ビョ

### 二、親ざり 子ざり

コツココ コケコケ

ビーヨ ビヨ

ほんきに みんな うれしいばかり

尾羽根や ミさかの 艶の善さ

ひよ子の可愛いさ 元氣よさ

嬉しいばかりの親ざり子ざり

コツココ コケコケ

ビョ〜 ビョ

「親鶏子鶏」をかいて「おやざりこざり」

「おむむ」が、少しの無理でもない信じますが、もし「お

やにはのりにははのり「こよまれても困りますから、親の  
り子さのり「こかきました。

一〇、ひよこ びよびよ

一、雛子 びよ びよ

雨が降る

急げ 菜鳥 麥鳥

垣根を くられば 近道だ

親は 木戸口へ

まはり道

二、雛子 びよ びよ

雨が降る

道は 砂利道 小石道

すべるな ころぶな つまづくな

親は 木戸口。

まはり道

雛子をあはれむ歌です。雛子の可愛らしさの歌です。

もつミ〜可愛いものでは、「ひよこが卵を産んだら、何

んなに可愛い、卵だらう」こいふのがあります。(子供の科  
學は、大人の、ほんこの科學は、全然、別ですから、叱  
らないで下さい)。

一一、ひよこの卵

一、ひよこは 小さいね 可愛い、ね

ひよこ の めんめは 小さいね

ひよこ の あんよは 可愛い、ね

ひよこ の なきごゑ

ピッ ピッ ピッ

二、ひよこは 卵を うまないか

ひよこ の 卵は 小さかろ

ひよこ の 卵は 可愛いから

ひよこ よ

卵を産んでくれ (かねがなる「より)

少し變りすぎてゐるかも知れませんが、全く、子  
供の想像には、大人の制止の手は届きません。

次に、一編、醜い人間世界の縮圖を見せられるやうな「ひ  
よこの世界」があります。



### 一二、はだかの雛子

はだかの ひよこ ビヨヨ ビヨ

あんよが 二本 ビヨヨ ビヨ

えさを ひろつて ビヨヨ ビヨ

二日目 三日目 ビヨヨ ビヨ

よく 毛が 生えた ビヨヨ ビヨ

えさの せりつこ ビヨヨ ビヨ

その聲は、やさしく、ビヨヨ ビヨ ミ人間の耳には、

聞えますけれど、ひよこ世界の言葉では、たゞ、やさしい

ビヨビヨではありませんでせう。しかし、生後たつた二日

目三日目にして、もう、餌の取り合ひ奪ひ合ひがはじまる

のです。童謡が、唯々その表面に現はれてゐる事ばかり

でなく、かくれたる意味の深いものがある時、この作の生

存價值は、倍加しませう。これは、本質的にはごちらでも

よいことだご存じます。

雛子は 一羽も るなかつた

めんざり一羽が 巢の中で

卵を うみうみ 番してた

鶏舎どりやの中で

番してた

二、雛子、垣根の外に出て

みんなで 何か 拾つてる

をんざり 一羽 突つたつて

時々 なきく 番してた

雛子を ひざりで

番してら

子を思ふ親の心は、をすながらも、親らしく、家を守る

は、女のつみめ、なききは謂はないでも、女らしいめんざ

りさん。

生まれ、めでたいざりの年に、今年は、めでたいごきを

ざりぐくに、ざりあつめて、幼児の世界は、いよく可愛

らしく、いよく美しく、そして、いよく元氣一ぱいで

ありますやうに。—— (昭和七、二二、二八午後)

### 一三、鶏舎の番、雛子の番

一、鶏舎どりやの戸口とぐちを のぞいたら